平成25年度県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業
評価委員による学校視察（まとめ）

- 1 日時 平成26年1月30日（木）
- 2 訪問者 熊田 正秋（評価委員、岐阜県経営者協会専務理事）
竹内 治彦（評価委員、岐阜経済大学副学長）
高橋 博美（評価委員、岐阜県教育委員会教育総務課教育主管）
増田 俊彦（岐阜県教育委員会学校支援課教育主管）
長澤 紀明（岐阜県教育委員会教育総務課課長補佐）
- 3 学校側 安藤 敏彦（校長）
佐藤 秀樹（教頭、リーディングプロジェクト小委員会委員）
伊佐治正浩（教務主任、リーディングプロジェクト小委員会委員）
矢嶋 崇明（情報科主任、数学科教諭、リーディングプロジェクト小委員会委員）
上野 智子（生徒会顧問、理科教諭、リーディングプロジェクト小委員会委員）
山田 茂雄（進路指導、数学科教諭、リーディングプロジェクト小委員会委員）
- 4 内容 評価委員が教育改革重点校への訪問を行い、事業の進捗状況の調査、授業見学等を行い指導・助言を行う。

5 概要

（1）テーマ アイデンティティーの育成について

- 意見1 アイデンティティーの育成とはどのようなものか。中学との違いは何か。
- 学校側 関市には長良川をはじめ、豊かな自然がある。これらを守る取組を世界に発信するなど、関市について考える学習と世界に目を向ける学習とをリンクさせたい。
- 学校側 関市は刃物の街として世界的にも有名である。これらの地元産業をアピールする取組などをおして地域を活性化できる人材育成につなげていきたい。
- 学校側 高校受験のないメリットを生かし、6年間を通して豊かな人間性を育成したい。
- 意見2 受験のないメリットもあるが、一方で、競争原理（受験）も大切である。6年間に社会性が欠如しないような配慮が必要である。一貫教育のデメリットを補って余りある魅力（メリット）を打ち出してもらいたい。
- 意見3 高校は生徒の居住地が広く、学校のある地域とのつながりが小学校のように密接ではない。生徒に共通する自然（長良川等）とのつながりなどをうまく活用し、関で学んだことが思い出深いものになるように仕組むなど、地域とのつながり意識した取組を推進してほしい。
- 意見4 関市の素晴らしさについて自然をベースに追求していただきたい。

（2）テーマ 「先輩を囲む会」について

- 意見1 いずれの講義も心がこもっていた。過去の苦勞を乗り越えポジティブ（前向き）でチャレンジする生き方が語られていたが、今現在社会で努力している先輩の姿に触れることは生徒にはとても大切であり心に残ると思う。このような機会を得ることは生徒にとってとても良いことであり、学校近郊で活躍している卒業生とのつながりは今後も大切にしていってほしい。

(3) テーマ グローカルな人材の育成について

- 意見1 グローカルな人材の将来像はどのようなものか
学校側 地元に残るだけでなく、全国どこにいてもふるさとのことを愛している人材であり、将来は地元に戻って地域に貢献してもらいたい。
- 意見2 理屈としては分かるが本当に機能するのか。地方公務員というイメージをもってしまう。外部の刺激（市場原理）をうまく取り入れていくことが大切である。企業の採用がダイナミックになっている（人材が流動化している）現状にあって、地域愛とどのように整合性を持たせるかが課題である。
- 学校側 人材の一極（東京）集中が進み地方が衰退することのないよう、地方の意地をかけてグローバルな人材育成に取り組みたい。
- 意見3 地域の人材を地域で育てるという発想は素晴らしい。大学の先で求められる力を6年間でどのように育成するかということまで見据えて計画を立ててもらいたい。そのためには、企業や大学など、高校以外の機関との交流からヒントを得ていかれてはどうか。

(5) テーマ 来年度以降の課題について

- 意見1 ハード面で魅力をアピールすることは実現が難しい。教育の内容、総合力で魅力を出していただきたい。
- 意見2 地域のトップを育成する役割も必要である。中学に入学した生徒をどのように育てるか、どんな教育内容を仕組むかが大切である。うまくいけば中高一貫校は魅力ある選択肢となる。3年目の成果を楽しみにしている。
- 意見3 熱心な取組に感謝している。2年目からの課題は高い学力や人間性の育成のための具体策である。例えば、思考力や判断力を育成するためにどのような授業改革が必要かを考えていただきたい。常に最新の取組で変化に対応し、生徒に最善のもの、真に子どもの力につながる方法を追求してもらいたい。身に付けるべき知識についても、「使える知識、伝えられる知識」を追求していただきたい。
- 意見4 外部人材を積極的に活用して、子どもと地域社会との接点を広げていってもらいたい。生徒が「大人と普通に会話できる力」を是非リーディングの取組の中で育成していただきたい。
- 意見5 中高一貫校の良い点は多々あるが、中学のクラス数が少ない場合に集団の中で身に付けるべき力をどのように保証できるかも、次年度の研究課題としていただきたい。
- 意見6 関高生の姿を小中学生が見ている。関高校に在籍する生徒が学校に誇りをもてるように今現在の教育を大切にしていきたい。
- 意見7 地域とのつながりを大切にした取組は小学校では充実している。中高に進学するにしたがって地域の行事に参加しなくなるが、日常から地域に出て体感する活動を仕組んでいっていただきたい。
- 意見8 発言するためには知識が必要となる。座学でなく必ず発言しなくてはいけない参加型の授業に取り組んでいただきたい。